



琉球大学附属図書館収蔵貴重資料の修復について



△左から親川兼勇附属図書館長、照屋善彦琉球大学名誉教授、ジェンキンス・A・P 沖縄立芸術大学教授(記者発表)



△ベッテルハイム修復史料

1. ベッテルハイム琉球滞在日記

(1) 修復の概要

琉球大学附属図書館では、2006年度沖縄関係貴重資料修復保存事業においてベッテルハイム琉球滞在手稿日記・手稿公文書簡の修復の完成に伴い、8月13日(月)に修復完成の記者発表を行った。

琉球大学には、5冊の貴重なベッテルハイムの手稿日記、および手稿公文書簡がある。

しかし、史料は150年ほど前に書かれた文書であり、19世紀前半の薄い洋紙が用いられているため酸性度が著しく高く、劣化が激しい状態であった。いわば、枯れ葉状態になっており、閲覧利用することが困難で、保存が危うい状態であった。

当修復事業については、かねてより内外の研究者からの強い要望があり文部科学省への概算要求の申請を行っていたところ、

2006年に文科省から修復事業としての予算交付があり、今回、修復を行った。

史料は、重度の劣化損傷が進んでいる上に、当時のカーボン紙での記載であるため、表の文字は、褪せて薄くなり、裏側の文字(逆像)が残っている特殊な状態であった。そのため、修復に際しては、従来の裏打ちによる修復を行うと史料裏面の文字情報が隠れてしまうこととなるため、特殊な修復技術であるリーフキャスト法(漉きばめ法)を用いて修復を行うこととした。

リーフキャスト法は紙漉きの原理で欠損部のみに修復用繊維を充填していくため、両面に情報がある紙の裏面を損なうことなく修復が可能であり、原本の修復に有効であった。

目次

1	琉球大学附属図書館収蔵資料の修復について
5	2006年度新収蔵沖縄関係資料の紹介
6	図書館所蔵貴重資料の紹介
7	図書館トピックス
7	図書館見学者

7	当館資料の放送取材・刊行物掲載
8	お知らせ
8	貴重書展開催案内
8	企画展「琉大で学んだ文学者たち」
8	びぶりお文学賞募集

(2) 史料の概要

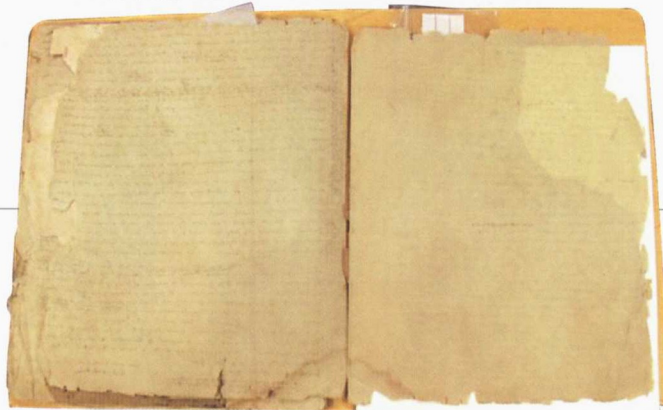
ベッテルハイムは、英国海軍琉球伝道会からの任命を受け琉球への航海中および琉球滞在中、膨大な手稿日記と手稿公文書簡を残しており、手稿日記と手稿公文書簡は支援者である英国琉球海軍伝道会への報告書として送付している。ベッテルハイムは、カーボン紙で書いたTOP COPYを自身の保存用として、米国に持ち帰っている。渡米後、史料を見直し、ところどころ書込みをいれているため、バーミンガム大学図書館、英国公文書館所蔵の史料との対比により書込みの部分についての相違が確認できる。渡米後の史料は、その後、ご子孫に引き継がれたと思われるがなんらかの理由で多くが散逸しており、現在、発見されているのは当館所蔵史料、および、先日、日本聖公会沖縄教区事務所に貸

与された日記と書簡のみである。当館の史料は、3冊の手稿日記と2冊の手稿公文書簡があり、そのうち、4冊(後述no.1、no.3、no.4、no.5)はベッテルハイムの曾孫R.J.ハンプトン夫人所蔵分を照屋名誉教授をとおして琉球大学図書館にご寄贈いただいたもので、残りの1冊(後述 no.2)はベッテルハイムの曾孫セオドア・J・ベレスフォード夫人所蔵を向田博士をとおしてご寄贈いただいたものである。今回の史料の修復により、原本の保存はもとより、内外の多くの研究者・一般の利用者に対しての史料の閲覧・利用が可能になり、今後のベッテルハイム研究の促進に貢献することが期待できる。また、附属図書館では、今後WEBでの画像の公開を予定している。

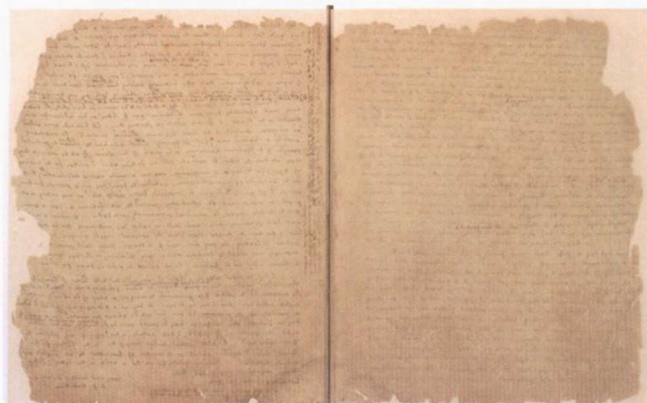
- no.1 1846年10月17日～1847年7月7日の手稿日記(琉大図書館のみ)
- no.2 1846年～1850年の手稿公文書簡
- no.3 1852年9月28日～1853年11月13日の手稿公文書簡(琉大図書館のみ)
- no.4 1853年4月2日～1853年7月25日の手稿日記
- no.5 1854年3月5日～1854年7月16日の手稿日記
(1854年4月7日から1854年7月16日までは琉大図書館のみ)

■ベッテルハイム史料 no. 2

▽no.2修復前(2頁目)



▽no.2修復後(2頁目)



2. その他の史料についての修復の概要

1 萬書付集

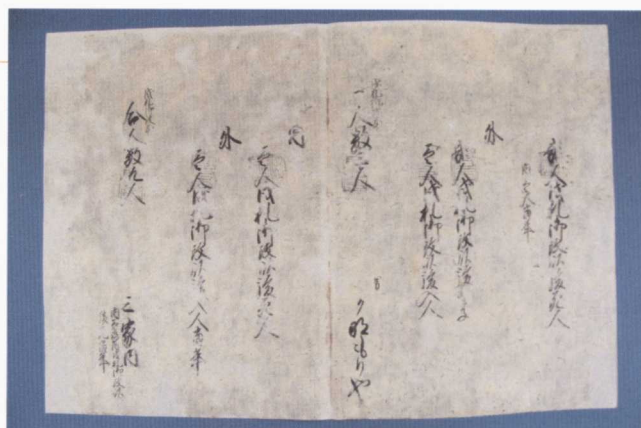
宮良殿内文庫中の諸史料を代表するものの一つ。松茂氏の宮良当親の手になる筆写本。八重山行政の拠点であった蔵元の諸手形(咸豊6年)や首里王府が派遣した検使、翁長親方が示達した諸規程(同7年)、同年の諸手形類、咸豊8~9年の諸文書からの抜粋などで構成される重要行政文書の集成。特に翁長親方の島政視察とその改善策をまとめた「翁長親方八重山島規模帳」の成立過程を検討するうえで不可欠な

史料。19世紀の八重山社会の実態を考察するうえでの具体的事例が随所に登場する。同名の文書は他にもあり、役人の業務遂行上の基本メモワールの意味で「万書付集」の名が使われた。しかしこの名で呼ばれる史料の代表格は本文書である。紙背文書があり、このほうも八重山歴史の重要史料と評価されている。(高良倉吉)

▽ 修復前(2頁目)



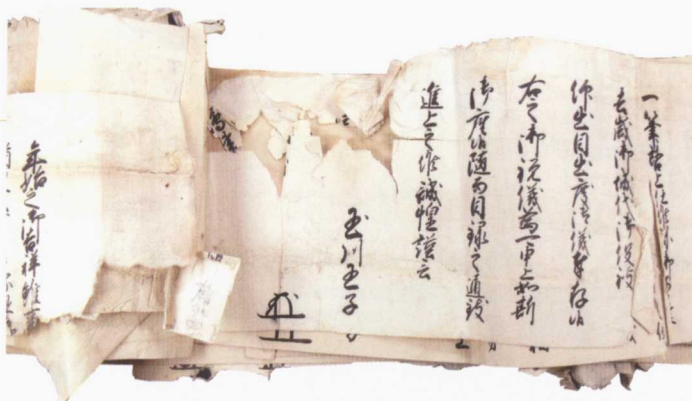
▽ 修復後(2頁目)



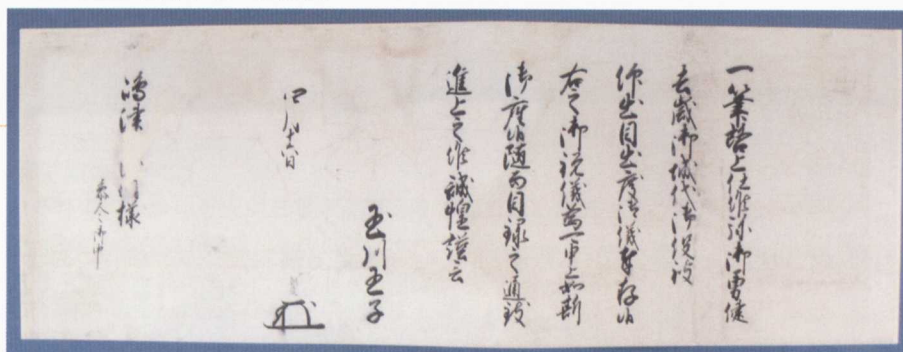
2 琉球王府花押印状 17枚

玉川王子(1826~1862・尚灝王第6王子)から島津家へ宛てた書状

▽ 玉川王子花押印状 修復前



▽ 玉川王子花押印状 修復後



3 伊波文庫 獨物語并御扶持方定

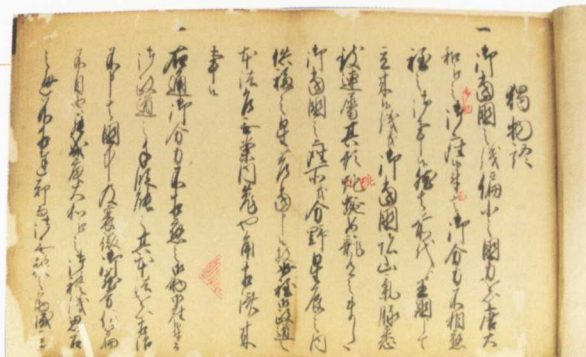
『独物語』は、近世琉球の政治家蔡温の著作である。1750年(尚敬38)、尚敬王死去の前年、蔡温69歳のとき国運の前途を思い、三司官、表十五人など当時政治の中枢部にある人々のために、琉球の政治経済のあり方について語りかけた書である。蔡温は、国に9段階があるが、琉球は最下段にあり、その琉球が唐、大和、両大国に仕える政治の苦衷をく朽手縄にて馬を馳せ候儀同断>とっている。その朽手縄をよく捌いた蔡温の政治的経験から、後事を託すつもりの具体案が提示されている。唐、大和への従属

国としての物入り、絶海の孤島の農林政策、とくに、当時20万の人口が30万、40万に増加したときの対策や、生産奨励には管理生産より増産することをのべ、教育習俗を憂え、交通、運輸などの当面する諸問題にまで及んでいる。国土は眼前の小計得では安堵はできない、長久の大計得、すなわち基本法を確立して夜昼入精することが肝要だと、全篇琉球の前途を憂える文字でつづられている。本資料には、『独物語』のほか『御扶持方定』という資料も含まれている。

▽ 修復前(2頁目)



▽ 修復後(2頁目)



4 卷子装 5巻

「島津家宛花押印状(一) 中山王尚育」、「島津家宛花押印状(二) 国吉親方 朝章」、「島津家宛花押印状

(三) 与那覇親方 良綱」、「島津家宛花押印状(四) 小禄親方 良恭」、「琉球諸島図巻」

5 額装 4点

「原文庫(扇形)(豊見城盛綱伝来の品)」

原文庫「風月亭」、原文庫「芝蘭宝」、原文庫「李丹元」

▽「原文庫(扇形)(豊見城盛綱伝来の品)」 修復前



▽「原文庫(扇形)(豊見城盛綱伝来の品)」 修復後



6 「手形一世流刑罪状」、「琉球人来朝之図(木版画)」

7 軸装 6幅

「琉球宮古馬古文書」、「暮秋遊識名苑 原忠順漢詩幅」、「原忠順書幅」(3幅)、「湯川秀樹博士書 学而不厭」

新収蔵沖縄関係資料の紹介(その1)

●「内外旗章便覧 明治初期 含・琉球国旗」

幕末から明治初期にかけて同種のもの少なからず出版されているが、本書は琉球国旗が掲載された珍しいもの。

●「戦前沖縄県伝統工芸指導所教科書 2冊 機織法 全/染色講義(安谷屋正量)」

戦前、首里城におかれていた伝統工芸指導所のテキスト。孔版。「染色講義」は所長であった安谷屋正量によるもの。

●「琉球人名書 天保3年 江戸上り琉球人使節名簿 巻紙一巻」

天保三年(1832)江戸上りで江戸城登城に際しての名簿の写し。正使は豊見城王子だったが、豊見城王子は鹿児島で客死した為、普天間親雲上が代役となった。

●「琉球聘使略 版本 一枚刷 嘉永3年」

嘉永三年(1850)の江戸上りの刷り物。正使は玉川王子。ほぼ同一のパターンでその都度内容を少し変えて発行されたと思われる。

●「遠江国見附宿 本陣助郷文書 琉球関連(文化5年)含 15通」

助郷とは大名行列等でそれに要する人馬等が宿場のみで対応できない時に、周辺の村々等から半強制的に動員する制度をいうが、本文書は旧東海道五十三次の内、江戸から数えて28番目、京から数えて26番目の宿場で、現在は静岡県磐田市にあった本陣に残された助郷文書で、天保四年の琉球人に関する助郷文書が含まれる。大名行列や琉球人行列は通過する地域の住人にとっては大きな負担であった。

●「御免琉球人行列附 文化3年版 山城屋・松代屋版 裏打有」

文化三年(1806)の江戸上りは琉球王尚灝より、徳川家へのもので正使は読谷山王子で一行は全部で97名であった。

●「琉球封使録 明治初期 須原鉄二編」

明治政府は琉球処分断行にあたって事前に琉球の歴史等を詳しく調べ、中国との交渉にあたらうとしていたが、本史料はその調査報告書を申すべきもの歴代の冊封の記録を整理してまとめている。当時の警察に御書物という役職があったというのも面白い。

●「琉球国米国船漂流文書 写本5丁」

那覇沖で米国船が難破し、救出保護したいきさつを(おそらくは)在藩奉行所に出した報告書。

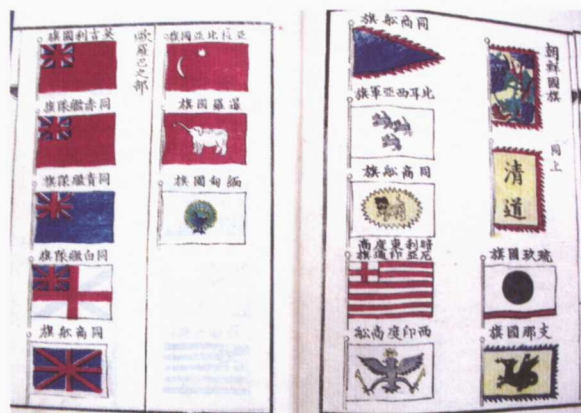
●「太政官御布告第50号 琉球藩郵便局布告 明治7年 三条実美」

沖縄における郵便制度の発足を告げた布告。この布告によって県内各所に郵便局がおかれることとなったが、実際には琉球処分に向けた明治政府の要員と中央官僚との連絡網の確立への第一歩として急ぎ整備する必要にかられていたことであった。

●「琉球人江戸上り狂歌刷物 一枚」

これまで全く知られていなかった天保三年の江戸上りを題材とした狂歌刷物。編者李宝は福井・加賀藩の蘭医。

木版多色刷で琉球人が描かれ、35名による狂歌が唄われている。琉球人の江戸上りを江戸の町人・知識人がどの様に受け止めたかを知る上での新出の一級資料である。



△ 内外旗章便覧 明治初期



△ 琉球国米国船漂流文書



△ 琉球人江戸上り狂歌刷物

図書館所蔵貴重資料の紹介

シリーズ 2

県指定有形文化財（指定日：昭和49年10月3日）

「浦添家本伊勢物語」 うらそえげぼんいせものがたり

和 鳥の子紙 筆写 109枚 24.7×17.5cm 縦×横

沖縄に伝来した室町時代中期写本。連歌師肖柏の『伊勢物語』注釈書『伊勢物語肖聞抄』（1480）本の一つ。伝肖柏自筆本に近い。浦添御殿（浦添朝熹家）旧蔵である。浦添家は沖縄首里の名門で、代々浦添間切の総地頭職に任じ、浦添親方を称し、三司官（国相）までも勤めた家柄である。浦添朝熹は尚育の摂政であり、尚育、尚泰時代の代表的な文化人で、琉球三十六歌仙の一人である。当時「伊勢物語」は歌人の間では必読の歌書だった。「伊勢物語」は在原業平に擬せられる色好みの男の一代記風の物語で、男女の情事を中心に風流な生活を125話にまとめている。浦添家本には字体、紙質、装丁に室町中期の古写本の特徴がみられる。沖縄に伝来した事情は不明。奥書などから夢庵・釈肖柏の自筆本「伊勢物語肖聞抄」からの転写であることがわかる。本の奥に、為相本の奥書が付けてあるが、本文の末尾余白に、（文明庚午孟冬澣書写訖、夢庵）と書入れがあり、又それに旁註して、（此年号夢庵御自筆也、写之訖）とある。夢庵は有名な連歌師釈肖柏で、牡丹花、弄花軒などの別号もあり、二条家の歌統を伝える歌道家として三条西実隆と並んで宗祇に師事する。浦添家本は「伊勢物語」の本文の余白に注釈を書き入れた体裁で、一般に「伊勢物語」と呼び慣わしてきた。この本が「混効験集」の参考にした本のひとつであろうと考えられている。沖縄の和文学受容の歴史を知る上で貴重な遺品で、昭和49年（1974）10月、沖縄県の有形文化財に指定された。

琉球大学図書館所蔵島袋源七文庫収蔵

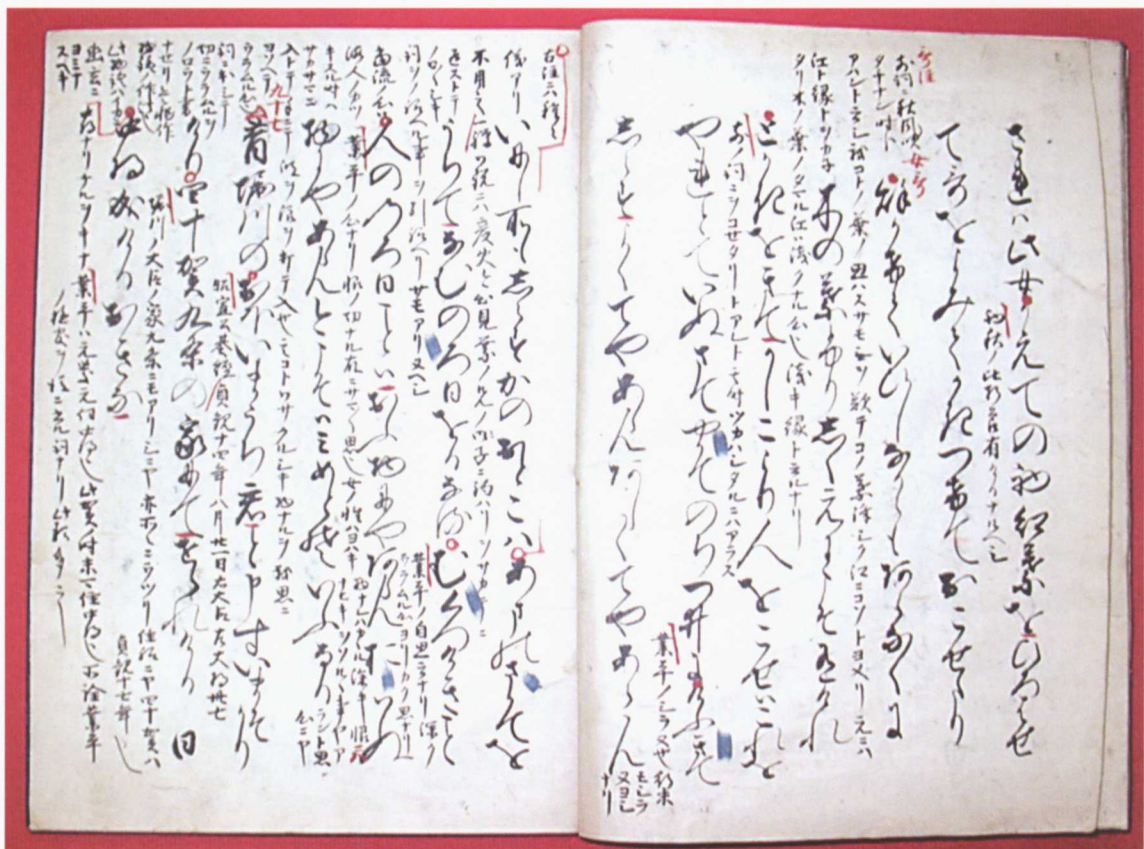
〔参考文献〕

『沖縄の有形文化財Ⅲ 有形文化財編』沖縄県教育委員会、1995、p.46

小島瓊禮「浦添家本伊勢物語」『沖縄大百科事典 上』沖縄タイムス社、1983、p.322

平成16年度 琉球大学附属図書館貴重書展、パンフレット「内と外からみた琉球」池宮正治執筆、2004、p.3

拓殖大学論集第十三号抜刷（昭和卅二年四月十日）「浦添家本伊勢物語について」 東恩納寛博著



EU資料展

附属図書館では、5月14日(月)から5月25日(金)までの間、2階情報ラウンジにおいて駐日欧州委員会代表部が主催する「日・EUフレンドシップウィーク」の一環として「発展するEUとリトアニア資料展」を開催しました。この「資料展」は欧州連合(EU)に関する理解を深めることを目的として企画しています。今回は、新たな企画としてEU加盟国の1国であるリトアニア共和国

の紹介と併せて開催しました。次年度以降もEU加盟国について順次紹介する予定です。



国立济州博物館での当館資料の展示について

大韓民国 国立济州博物館において、2007年7月16日(火)～8月26日(日)までの間海洋文化交流特別展Ⅱ「耽羅と琉球王国」が開催されました。その中で当館の以下の沖縄関係貴重書についても借用の依頼があり、展示されました。

『朝鮮琉球全図』、『中山物産考』、『薩摩風土記』、『中山伝信録』、『琉球国志略』、『琉球人行列図錦絵』



◁中山物産考

琉球風俗絵巻レプリカについて

この度、附属図書館では熊本大学所蔵琉球風俗絵巻のレプリカを作成し、収蔵しました。

この絵巻物は、縦30センチ 横20米17センチ、旧五高の角朱印があり、当館では、1988年にカラー複写による冊子本にして所蔵していましたが、今回、熊本大学のレプリカ作成にあわせ、当館でも原本の絵巻物の形で作成しました。



書「追根究底」の寄贈について

図書館では、李遠哲氏の揮毫された書「追根究底」の寄贈を受けた。書は、「琉大21世紀フォーラム」開設記念講演会(2007年7月10日開催)へ招聘された際に揮毫されたもの。(額装 縦47cm 横123cm) 3F留学生コーナーへ掲げられる。

李遠哲氏:台湾の化学者。化学反応素過程の研究により1986年にノーベル化学賞を受賞。

1994年に帰国して台湾中央研究院長に就任、2006年10月まで務めた。追根究底(ついこんきゅうてい)

物事の本質を徹底的に調べ尽くすこと。物事の本質。「追究」は、「真理を追究する」のように使い、尋ね究める意。(岩波四字熟語辞典より)

図書館見学者

- 5/10(木) 与論高校(午前)80名
- 5/10(木) 松山北高校110名
- 5/29(火) 中国雲南農業大学(学長、副学長、その他1名)の図書館見学
- 6/13(水) 琉球大学附属小学校 2年生9名が図書館を見学
- 6/18(月) 琉球大学シニア短期留学参加者 15名
- 6/27(水) 宜野湾中学校1年生 23名 各グループ別での調べ学習
- 7/3(火) 宮里中学校
- 7/9(月) 琉球大学附属小学校 2年生 児童40名 保護者4名 教員1名 45名
- 7/11(水) 美来工科高等学校 インターンシップ(工学部受入)学生3名
- 7/11(水) 沖縄工業高校 インターンシップ(工学部受入)学生3名
- 7/17(火) 河嶋辰彦学習院大教授 米城智次 来館
- 7/18(水) 福建師範大学の教員が4名+引率教員1名
- 8/28(火) 飯田女子短期大学 教職員35名
- 8/30(木) 尚綱大学文学部司書課程・司書教諭 課程学生 6名 引率3名
- 9/13(木) 宜野座高等学校 40名
- 9/14(金) 陽明高等学校 1年生204名 引率教員 6名
- 9/27(木) 球陽高等学校 1年生320名 引率教員 21名



◁松山北高校図書館見学

当館資料の放送取材 刊行物掲載

放送・発行日	番組名・書名	提供資料
2007年	『沖縄県史各論編4 近世』 発行 沖縄教育委員会 書籍1,500部 CD-ROM1,500枚	「おもしろさうし」(仲吉本) 巻3-103
2007.7.5	よみうりテレビ 『ニッポン旅×旅ショー!!』 日本テレビ系列全国28局	ブルー文庫 ガラス版写真 NO.17 Sugar Mill in Loo Chooan Village
2007.8.13	沖縄テレビ 放送	ペッセルハイム修復史料について
2007.8.13	NHKテレビ 放送	ペッセルハイム修復史料について
2007.8.14	沖縄タイムス 朝刊24面報道	ペッセルハイム修復史料について
2007.8.15	琉球新報 朝刊22面報道	ペッセルハイム修復史料について
2007.11	沖縄県立博物館 常設展示の軽便鉄道模型の背景映像に使用	「沖縄写真展」 嘉手納近くの川の風景
2007.11	沖縄県立博物館 常設展示の歴史部門展示のグラフィックに使用	「沖縄写真展」 那覇見送り
2007.10.1	沖縄タイムス社 『沖縄県立博物館・美術館 美術館開館記念展 「沖縄文化の軌跡 1872-2007」展図録』	「琉球人行列図錦絵」 横判錦絵5枚
2007.11.5	株式会社 ワイド 平成20年度カレンダー『琉球風俗絵図』700部	「琉球風俗絵図」 掛け軸2点
2007.10.10	株式会社 沖縄メディア企画 季刊紙「The Okinawan」刊行 10,000部	ブルー文庫 ガラス版写真 Stone Dragon at Foot of Old Palace (古い宮殿の階段下の石造りの龍) Welcome Gate into Old Palace, Shuri (古い宮殿への歓迎の門、首里) Castle of the Loo Chooan king (琉球国王の城)
2007.11	沖縄県立博物館博物館常設展示のA V 『薩摩による琉球侵攻』、『サーターとウッチン』で使用	喜安日記(伊波普猷文庫) 「製糖の場面」(明治期琉球写真展)

本館

10月 October 2007							11月 November 2007							12月 December 2007						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6	4	5	6	7	8	9	10	2	3	4	5	6	7	8
7	8	9	10	11	12	13	11	12	13	14	15	16	17	9	10	11	12	13	14	15
14	15	16	17	18	19	20	18	19	20	21	22	23	24	16	17	18	19	20	21	22
21	22	23	24	25	26	27	25	26	27	28	29	30	23	24	25	26	27	28	29	
28	29	30	31										30	31						

1月 January 2008							2月 February 2008							3月 March 2008						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6	3	4	5	6	7	8	9	2	3	4	5	6	7	8
6	7	8	9	10	11	12	10	11	12	13	14	15	16	9	10	11	12	13	14	15
13	14	15	16	17	18	19	17	18	19	20	21	22	23	16	17	18	19	20	21	22
20	21	22	23	24	25	26	24	25	26	27	28	29	23	24	25	26	27	28	29	
27	28	29	30	31									30	31						

医学部分館

10月 October 2007							11月 November 2007							12月 December 2007						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6	4	5	6	7	8	9	10	2	3	4	5	6	7	8
7	8	9	10	11	12	13	11	12	13	14	15	16	17	9	10	11	12	13	14	15
14	15	16	17	18	19	20	18	19	20	21	22	23	24	16	17	18	19	20	21	22
21	22	23	24	25	26	27	25	26	27	28	29	30	23	24	25	26	27	28	29	
28	29	30	31										30	31						

1月 January 2008							2月 February 2008							3月 March 2008						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6	3	4	5	6	7	8	9	2	3	4	5	6	7	8
6	7	8	9	10	11	12	10	11	12	13	14	15	16	9	10	11	12	13	14	15
13	14	15	16	17	18	19	17	18	19	20	21	22	23	16	17	18	19	20	21	22
20	21	22	23	24	25	26	24	25	26	27	28	29	23	24	25	26	27	28	29	
27	28	29	30	31									30	31						

開館時間 黒(Black) 8:30~22:00 緑(Green) 10:00~20:00 青(Blue) 8:30~17:00 赤(Red) 休館(Close)

本館だより

平成19年7月10日

第256回 附属図書館運営委員会録

○審議事項

1. 平成18年度決算について
2. 平成19年度予算について
3. 学術情報基盤資料について

○報告事項

1. 中期目標・中期計画について
2. 学術リポジトリについて
3. 情報リテラシーについて
4. びぶりお文学賞について
5. 沖縄関係貴重資料の収集及び修復保存事業について

医分館だより

平成19年8月3日

第61回 医学部分館運営委員会録

○協議事項

1. 平成20年度の電子ジャーナル等の整備方策について

平成19年9月5日

第62回 医学部分館運営委員会録

○協議事項

1. 平成20年度の電子ジャーナル等の削減案について

○報告事項

1. 開館時間の延長について

附属図書館の組織改編について

附属図書館では、平成19年7月1日付けで下記のとおり組織・業務の改編を行いました。

情報管理課

総務係 → 総務係
図書館庶務・会計全般 ……(tel:8153)

資料受入係 → 図書情報係
図書購入・目録作成・週及入力・寄贈受入 ……(tel:8159)

目録係 → 雑誌情報係
雑誌購入・電子ジャーナル契約・データベース検索システム契約 ……(tel:8156)

システム管理係 → システム管理係
図書館電算システム・ネットワーク運営・障害対応 ……(tel:8161)

情報サービス課

電子情報係 → 情報サービス企画係
機関リポジトリ・貴重資料室・国際資料室運営・EUI展示会その他企画・広報関係 ……(tel:8167)

参考調査係 → 情報リテラシー係
リテラシー講習会(情報科学演習・各学部学科基礎演習等)
電子ジャーナル閲覧対応・データベース検索指導・参考調査業務 ……(tel:8170)

資料サービス係 → 資料サービス係
貸出返却窓口業務・図書閲覧対応・閲覧施設運営・学外相互貸借業務 ……(tel:8166)

医学情報係 → 医学情報係
医学部分館運営全般 ……(tel:1052)

貴重書展開催案内

「琉球・沖縄の歴史と文化への誘い」

日時：2007年10月17日(水)～10月22日(月)
水・木・金 午前10時～午後7時
土・日・月 午前10時～午後5時

場所：宜野湾市民図書館
住所：宜野湾市我如古3-4-10
TEL：098-897-4646

※ 多くの方のお越しをお待ちしております。(入場料無料)

企画展「琉大で学んだ文学者たち」

琉球大学の卒業生には芥川賞作家を始めとして文学界で活躍している人が数多くいます。附属図書館ではこれらの方々の紹介を目的に著作物パノラマ展を行っています。どうぞ、ご観覧ください。

場所 教養図書コーナー
(附属図書館2階情報ラウンジ)
日時 平成19年
9月10日～10月31日

びぶりお文学賞募集

附属図書館では、琉球大学の文学活性化をさらに図るため「びぶりお文学賞コンクール」を実施します。だいたい、応募作品を募集中です。(応募締切2007年10月31日→発表11月30日予定)
受賞作1編：欧米往復航空券と滞在費補助5万円(※)もしくは、ノートパソコン1台(15万円相当)
佳作3編：1編につき図書カード5万円分
※ 欧米往復航空券は、沖縄から目的地(1ヶ所)までのエコノミー割引(15万円以内)航空券となります。
本学の学部学生・院生・留学生の皆さん、ふるって応募してください。